市長定例記者会見（令和４年９月２６日）録

１１時３０分～１２時１１分

題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況等につきまして、一言申しあげたいと存じます。

ご承知の通り、非常に感染力が強い「オミクロン株」の影響により、これまでにない規模とスピードで感染が拡大しておりましたけれども、現在は全国的にも減少傾向に転じております。本市でも８月中旬をピークといたしまして、その後減少傾向に転じております。

こうした中で、香川県におきましては、確保病床使用率が５０％を安定的に下回るなど、医療提供体制が一定の改善傾向にあることなどから、県独自の感染警戒レベルの「感染拡大防止対策期」は維持しつつ、８月１０日から発令しておりました「ＢＡ・５対策強化宣言」を、昨日（９月２５日）をもって終了することとしたところでございます。

市内の新規感染者数を見てみますと、先月２４日以降、前週の同日を下回る状況が続いております。直近１週間の新規感染者の合計も、１，４５９人となり、５週連続で前週を下回っている状況で、明らかに減少傾向に入っていると言っていいのではないかと思います。

ただ、減少自体は、鈍化してきている状況でございますし、また、検査数が少なくなる日曜日や祝日を除きますと、依然として１日に３００人前後の感染者が確認されておりますことから、まだまだ収束だと油断はできない状況であると捉えております。

私といたしましては、感染の再拡大を繰り返さないためにも、しっかりと感染防止対策を行いながら、一方で社会経済活動を取り戻す取り組みを進めてまいりたいと存じます。

さらにもう１点、市民の皆様方には、地震等災害に備えての備蓄を従来からお願いしていますが、新型コロナウイルス感染症についても、感染いたしますと自宅での療養ということになりまして、食料品、日用品等の調達が難しくなりますので、感染時の自宅療養にも備え、食料品等の備蓄も災害時と同様に心がけて行っていただきたいということを１点お願いいたしたいと思います。

オミクロン株に対応した新型コロナワクチン接種について

それでは、題材に入らせていただきます。本日は５件ございます。

はじめに、オミクロン株に対応した新型コロナワクチンの接種を開始するものでございます。

まず、９月２２日（木）時点のワクチン接種の状況ですが、３回目接種を終えられた方は、約２６万人、接種率は、６２％となっております。また、６０歳以上の４回目接種を終えられた方は、約８８，０００人で、接種率は６１．３％となっております。

このような中、先日、国において、オミクロン株に対応した新型ワクチンの追加接種が２０日から実施する方針が示されましたことから、本市におきましては、先週２２日（木）から、オミクロン株対応ワクチンの集団接種を実施しているところでございます。

接種対象者は、２回目接種を終えた１２歳以上の全ての方でございまして、接種スケジュールといたしましては、まずは、４回目接種の対象者で、まだ接種を終えていない、６０歳以上の方や基礎疾患のある方などから開始いたします。

以降、１０月下旬ごろから、４回目や３回目の接種を終えた方へ、また、１１月以降に、３回目接種を受けていない方へと、接種状況を見ながら、順次拡大していく予定としております。

使用するワクチンは、オミクロン株ＢＡ・１に対応した２価ワクチンです。ファイザー社製が１２歳以上、モデルナ社製が１８歳以上の方が対象となっております。

接種券でございますが、４回目接種を終えていない方につきましては、すでに配布しております、４回目の接種券を使用していただきます。そのほか、３回目接種を終えた方で、まだ接種券が送付されていない方や、４回目接種を終えられた方に対しましては、来月半ば以降、順次、接種券を送付する予定としています。

接種体制といたしましては、これまでと同様、市内医療機関での個別接種を中心といたしまして約２５０の協力医療機関におきまして、１０月３日（月）から開始する予定でございます。また、１０月の個別接種を補完する集団接種のスケ

ジュールにつきましては、市役所１３階大会議室、みんなの病院におきまして、１０月１日（土）など、全部で１０月は８日間実施いたします。接種枠は全体で４，２２０人分を予定しております。

集団接種の予約につきましては、本日、午後３時から、オンラインとコールセンターにおきまして受付を開始しております。

なお、２回目接種を終えられていない方への、従来型ワクチンによる集団接種の実施も予定しておりますので、詳細・日程等につきましては、本市ホームページを御確認ください。

また、現在、国では、オミクロン株ＢＡ．５に対応した新型ワクチンの導入も検討されております。現在、流行しているウイルスは、ＢＡ．５が中心となっているため、先行導入するＢＡ．１対応型の２価ワクチン接種を見合わせ、ＢＡ．５対応型の接種を待つ「接種控え」が懸念されるところでございます。

ただ、２種類のオミクロン株対応ワクチンは、その効果や安全性に大差はないとされておりますので、できるだけタイプにこだわらず、接種可能となった時点で使用できるワクチンをできる限り早めに接種していただきますようお願いします。

分野横断デジタル給付実証事業の実施について

続いて、民間の決済プラットフォームを活用した「パーソナルデータ基盤」の整備によります、「分野横断デジタル給付実証事業」を、１０月から一部開始するものでございます。

これにつきましては、国の方で全国６か所のうちの一つとして採択を受けました「デジタル田園都市国家構想推進交付金 デジタル実装タイプTYPE３」の事業を進めているところでございます。

今回の実証事業では、民間事業者が提供するスマートフォンアプリ「My Digital Wallet（マイ デジタル ウォレット）」を活用することで、データ連携によるインセンティブ付与の仕組みを整備しております。

２つございまして、１つは「デジタル商品券」の実証事業でございます。

１０月１３日から、商品券の予約申込を開始する予定としております。デジタル

商品券では、マイナンバーカードを用いて、高松市民であることを確認することとしており、高松市民と確認された方は、商品券のプレミアム率を２０％に優遇されるものです。確認できない市民の方や、市外にお住いの方、観光客などには、プレミアム率を１０％で販売いたします。

また、商品券につきましては、１１月１日から来年２月２８日まで、加盟店で御利用いただけます。なお、加盟店につきましては、現在、鋭意募集を行っているところでございます。

それから２点目でございます。健康データとして、ワクチン接種証明書アプリとの連携のほか、購買データとしてレシートの投稿との連携、移動データとしてＩｒｕＣａカードと連携、この３つのデータ連携事業を考えているところでございます。ポイント付与をそれぞれインセンティブに行うということですが、健康データが、１０月３１日から、購買データが、１１月１日から、また、移動データが、来年１月中旬から、それぞれポイント付与を開始する予定でございます。

なお、実証事業は１０月までに始めるということにしておりますが、１０月が昨年創設されました「デジタル月間」でございますし、１０月２日・３日が「デジタルの日」ということでございますので、これに合わせた形で実証実験を開始し、全国に先駆ける事業として、国が目指します、社会全体のデジタル化に向けた機運の醸成にも資するものと考えております。

なお、事業内容の詳細につきましては、この後、午後２時から、デジタル戦略課より御説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

たかまつ with わんにゃん プロジェクト２０２２の実施について

このほか、３件につきましては、簡単に御報告をさせていただきます。

まず、１件目は、保健所に収容された犬や猫の殺処分数を減らすため、クラウドファンディングを活用した「たかまつwithわんにゃんプロジェクト２０２２」を実施するものでございます。

現在、本市では、やむを得ず殺処分される不幸な犬や猫の数を減少させるため、「さぬき動物愛護センター『しっぽの森』における譲渡促進事業」や、保健所に収容された離乳前の子猫や子犬を一時的に育てる「ミルクボランティア事

業」などの動物愛護管理事業に取り組んでいるところでございます。

昨年度、こうした動物愛護管理事業に対しまして、クラウドファンディングで寄付を募る「たかまつwithわんにゃんプロジェクト」を実施したところ、目標額１，０００万円を上回る寄附金が寄せられたところでございます。

今年度におきましても、動物愛護管理事業を、さらに推進していくため、同様のプロジェクトを実施するものでございます。

クラウドファンディングによる寄附金の募集期間は、令和４年１０月１日（土）から１２月３１日（土）までで、目標額は５００万円でございます。皆様方の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

「やしまーる」のパノラマアート作品「屋島での夜(よる)の夢」の展示開始について

２件目は、先日、御報告しておりますが、今月２９日（木）から、瀬戸内国際芸術祭２０２２秋会期の作品となる、「やしまーる」のパノラマアート「屋島での夜（よる）の夢」が展示開始となりますので、お知らせするものでございます。

「屋島での夜（よる）の夢」は、対象となりますのは、源平合戦の屋島の戦いがテーマでございます。作品は、東京藝術大学名誉教授の保科　豊巳（ほしなとよみ）氏の作品でございます。屋島を訪れた主人公が、観光で屋島の名所を巡った、その夜に見た夢の時空間（じくうかん）を超えた戦いのドラマとして作成されたものでございます。

「パノラマ館」という、究極の球状の局面に絵を描いてぐるっと回りながら見るという手法ですが、「パノラマ館」の手法を用いた作品は、国内では、ここ屋島が唯一の展示となるということでございます。本市といたしましても、本作品の展示を、秋からの、屋島やその周辺地域のにぎわいの創出、活性化につなげてまいりたいと存じます。

作品は、今月２９日（木）秋会期のスタートからの公開でございます。観覧料は、大人１，０００円、中学生以下は無料となっております。なお、瀬戸内国際芸術祭のパスポートを提示すれば２００円の割引となります。

また、明日２７日（火）午前１１時から、報道関係者の方を対象とした内覧会を実施いたしますので、ぜひ、お越しいただきたいと存じます。

２０２３年高松市二十歳のつどいについて

３件目は、成年年齢の引き下げに伴い、今年度から「成人式」の名称を「二十歳（はたち）のつどい」に変更して実施するものでございます。

式典は、サンポートホール高松が改修中のため、レクザムホールにおきまして、令和５年１月８日（日）午後１時から行うこととしております。

対象となるのは、これまでどおり、その年度に二十歳になる方で、今回は、平成１４年４月２日から平成１５年４月１日に生まれた方、約４，５００人でございます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、２部制で実施いたしましたが、今回は、県が示すイベント等の開催基準に基づき、基本的な感染防止対策を講じた上で、１部制で行う予定でございます。

１１月上旬に市外からの参加希望者の申し込みの受け付けを開始し、１２月上旬に、対象者へ案内状の発送する予定としております。

なお、二十歳（はたち）のつどいの概要につきましては、１２月下旬頃、改めて、詳細をお知らせしたいと思います。

私からは以上でございます。

【記者質問】

【記者】

２０２３年のG７都市大臣会合の開催地が高松市に決まったことへの受け止めと、市の準備態勢について

【市長】

Ｇ７広島サミットに伴う都市大臣会合が高松市で開催することが決まったことについての受け止めですが、2016年に行われたＧ７情報通信大臣会合に続いて、Ｇ７広島サミットの都市大臣会合が高松市において開催されることが決定しました。非常に喜ばしく思っています。

この関係閣僚会議の誘致に当たっては、香川県、関係団体と連携し、国、政府に要請をしてきましたが、多島美を誇る瀬戸内海を背景に、国際会議の受入実績が豊富なコンベンション施設、宿泊施設、交通の拠点となるＪＲ高松駅、高松港がコンパクトなエリアの中に存在し、集積して非常に利便性が高い地域であるというアピールをしてきました。

都市大臣会合の開催決定は、こうした高松市の強みや魅力が評価されたものであり、2016年の情報通信大臣会合の開催実績が、高く評価されたもの思っており、大変嬉しく受け止めているところでございます。

またそれに向けた準備ですが、１０月１日に県交流推進課内に、「サミット閣僚会合推進室」が設置されますことから、本市職員を４名派遣し、県市行動で力を合わせて、会合の成功に向けて取り組んでまいりたい、また、民間の関係団体にも御協力を得ながら、これを契機に国際都市高松といったものが進展するような形で成功に向けて取り組んでまいりたいと思っています。

【記者】

台風１４号の接近について、市の対策を振り返っての所感は

【市長】

台風の関係で市としての対策の振り返りですが、台風が直撃してきて一番最接

近したのが１９日の夜でしたが、１９日の未明にリードタイムを取りながら、高潮警報が発表される可能性が高かったということがありました。そのため、夜間、暴風の中での避難は、危険が伴いますことから、１８日午後４時、かなり早い時期に水防本部を設置し、午後６時には、市内沿岸部の高潮浸水想定区域を対象に、警戒レベル３の「高齢者等避難」を発令いたしました。

また、１９日に、台風の接近と、満潮時刻が重なる時間帯、夜７時３分でしたが、そのころに潮位が高潮警報基準を超える可能性があったため、１９日の午後２時３０分に警戒レベル４の「避難指示」を発令したところでございます。

この避難指示により、最大で７６世帯、１００名の方がコミュニティセンター等の指定避難所へ速やかに避難していただけました。

ご承知の通り、今回の台風１４号は、過去に例がないような、暴風・高波・高潮が事前予想されていました。本市では、平成１６年に、大きな傷跡を残した台風１６号による高潮被害がございましたので、我々としてはかなり強い危機感を持って対応に臨んでおりました。

幸い、被害は倒木や隣地からの資材等の飛来など、暴風の影響とみられる通報が数件ございましたが、人的な被害はなく、大きな物的被害もありませんでしたので、そういう意味では全体としてほっとしているところでございます。

いずれにいたしましても、市民の皆様におかれましては、今後とも、本市からの避難情報等の発令に注意をしていただき、できるだけ早めの避難を心掛けていただくようお願いしたいと存じます。

【記者】

中央公園のリニューアルに向けた再整備方針案がまとまったが、民間活力の導入などに対する期待感は

【市長】

中央公園というのは、昔高松市市営の市民球場があった跡地について、シンボルになるような公園を作ろうということで整備された公園です。整備されて年月が経ち、非常に陳腐化、老朽化してきているということで、再整備したいということです。ただ、再整備するにあたって、都市公園をもう１度作り直すといった

形ではなく、Park-PFIという手法が各地で見られていますので、そのような手法を使うことを考えることも含めながら、整備の在り方について検討していこうという方針が決まりました。今後、他の先進事例等を参考にしながら、高松市の中央公園に相応しい整備の在り方、民間活力の活用の在り方について色々検討していきたいと思います。

【記者】
＜中央公園リニューアル＞
　公園内に飲食店を出店することで、多くの市民が来るのではないかと思うが、そのことに対する期待感は

【市長】
　そういう意味での賑わい創出、利便性の向上はあるかもしれませんが、周辺商店との兼ね合い、色んな考える要素、課題もあるので、色々相談していきながら、高松中央公園として何が一番ベストなのか、今後具体的に検討していきたいと思います。

【記者】
＜中央公園リニューアル＞
　どのような公園にしていきたいのか

【市長】
　憩いの場としての公園の場はある程度残したいと思います。その上で公園を楽しめるような飲食店、カフェなどがうまく配置されるといったような方向で議論していただき、最もふさわしいやり方を見つけていただければと思います。

【記者】
　G7広島サミットに伴う都市大臣会合開催について、気候変動や脱炭素社会など都市が抱える課題が議題に上がると思うが、これらに関連したイベントの開催予定は

【市長】
　Ｇ７サミットの関連閣僚会議は全部で１４ありました。そのうち都市大臣会合が高松市で行われることが決定しましたが、この都市大臣会合は今年のドイツサミットから開催が始まった会合で、来年の高松市が２回目となります。
最初、都市大臣会合と聞いたとき、何を扱うのか分からなかったが、持続可能な都市開発についてというメインテーマを基に、持続可能性の中で脱炭素社会の在り方、スマートシティの構築なども含まれて都市の在り方を議論していこうということだと思います。本市は丸亀町の再開発事業、スマートシティについても鋭意取り組んでいます。脱炭素についてもゼロカーボンシティを宣言していますので、非常に我々としても関心の強い分野の会合が誘致できたということは非常に喜んでいます。これに関連して特別なイベントをやるかどうかは、これから鋭意検討していきます。少なくとも、今高松市がやっている、それぞれに関連する事業について、この会合によって弾みがつくような形で発展ができていければいいかなと、そのような方向で考えていきます。

【記者】
　政府が来月１１日から入国者数の上限撤廃など水際対策の更なる緩和や全国旅行支援を開始すると明らかにしたが、それに対する期待と市としての取組みは

【市長】
　いわゆるインバウンド客の解禁、制限が撤廃されることについては、非常に喜ばしいことだと思っています。高松市、香川県は２０１９年にインバウンドが非常に伸び、経済も進展しましたが、コロナ禍によって２０年２１年とインバウンドがほぼ０になった、対前年９８％マイナス、ほぼ０という形になり、経済としても大きな影響を被りました。

コロナ禍の影響ということで仕方がない部分はありますが、徐々に解除され、今回全面解除ということで、すぐに２０１９年の状況になるとは思いませんが、それに合わせた形で海外との直行路線も考えていきながら、外国人観光客の受け入れ態勢の充実を早急に図ってまいりたい、そのための支援を市として考えていきたいと思います。国内の全国旅行支援も復活、行われるので、それら旅行事業によって観光産業が少しでも回復することを祈っており、それにつれて色んなご要望も聴きながら、市として支援できることがあるのか検討していきたいと思います。

【記者】

明日、安部元総理の国葬が行われるが、高松市として半旗の掲揚や黙とうなどの対応を行う予定はあるのか

【市長】

本市としては明日の国葬儀に対して、故安倍首相に弔意を表するために、本庁舎並びに出先機関に半旗を掲揚することにしました。なお、市民、本市職員に対し黙とうや弔意を強制する考えはありません。また、教育委員会に対しても、何らかの形での対応を求めることは考えていません。

【記者】

デジタル実証実験について、健康データや購買データ等の連携事業は他の自治体での実施事例はあるのか

【市長】

データ連携というのは初めてだと思います。単なる商品券を電子で発行するのはあると思いますが、データ連携で色々やるのは初めてだと思います。

【記者】
＜デジタル実証実験＞
　健康データや購買データを連携する実証実験を高松市で行うことに対する期待と狙いは

【市長】
　商品券について、例えば市民の方マイナンバーカードを使ってということになりますが、市民の方とそうでない方の割引率を変えることができる、いろんな購買データ、移動データ、健康データと連携をさせることによって、どういう方がどういうものを買っている傾向があるのか、あるいはどういう場所に移動して買い物をしているのか、分析ができることかと思います。また、別途実証実験をしようとしています地理空間データ、地図の情報システムとデータ連携をすることによって、立地可能性を分析することができるといったような、検討次第によっていろんなサービスに発展していけるのではないか、行政サービスだけではなく、オープンデータとした場合には色々活用ができるなど、可能性が拡がっていく、そのためのまずは実証実験ということかと思っています。

【記者】
＜デジタル実証実験＞
　今後の展開についてどのように考えているのか

【市長】
　今回商品券がこのような形ですが、これが電子的なもので商品券を交付することができることで、いわゆるプッシュ型給付金の事業にも結び付けられる可能性も出てきます。あくまで今回は実証実験なので、いろんな可能性を探っていきたいと思います。

【記者】
＜デジタル実証実験＞
　デジタル田園都市国家構想の中にどのようにあたっていけばと考えるのか

【市長】
　デジタルを使って、地方に住んでいても、色んな豊かな生活にしていこうというのがデジタル田園都市国家構想の一番の趣旨かと思っていますので、そういう高松市の中で、どこに行っても色んな形で便利にデジタルの商品券が使ったりできるといったことで豊かさが感じられる、あるいは経済的なものとして、経済振興に役立つといった可能性が見つかるということを期待していきたいと思います。それでデジタル田園都市国家構想が目指す社会像に少しでも近づければと思っています。

【記者】
＜デジタル実証実験＞
　アプリやデジタル媒体を使うのは若い世代が中心になると思うが、若者のワクチン接種率が低迷している状況で、ワクチン接種証明などを連携すればポイント付与といった取組みを行う狙いと目的は

【市長】
　健康データということでワクチン証明を取り上げていますが、ワクチンを接種することによって、新型コロナウイルス感染症にかかりにくくなる、重症化しなくなるなど健康に役立つものなので、その役立つものを接種していただき、その証明書をデータ連携するとポイントがもらえますということになるわけで、ワクチン接種のインセンティブが働くと思っています。特に若い方のワクチン接種率が低いので、こういったアプリでインセンティブを働かすことによって少しでも接種率の向上に結び付けられたらと思っています。

【記者】

新型コロナウイルス感染者の全数把握見直しが今日から始まるが、市長の見解は

【市長】

オミクロン株による感染拡大状況により保健所機能が逼迫し大変な状況でした。医療機関においても、軽症者が多く自宅療養者が多かったものの、入院患者が増え、医療体制もかなり逼迫した状況の中で、何らかの事務負担の軽減措置が必要ではないかということで、全数把握の見直しを私自身も言ってきていましたし、市長会としても言ってきましたが、やっと今回全国一律という形で見直しが行われたことは評価したいと思います。

見直しということで、発生届の対象者が、６５歳以上の方、入院を要する方などの４類型に限定されることとなりました。結果として、本市で換算しますとだいたい８割くらいは届け出が必要ないことになると思います。

ただこの見直しで一番の問題になるのは、発生届を出さなかった人に対して、保健所が具体的な状況が把握できない、その方が状態が急変した時、あるいは何か相談をしたい時にちゃんとした体制ができるのか、一番の問題でしたが、それらについては国から各都道府県に「健康フォローアップセンター」を設置し、対応する方針が示されました。

香川県についてはフォローアップセンターを作るのではなく、県が設置している「健康相談コールセンター」、「陽性者登録センター」において、新たに、『陽性者登録に関する案内』を始め、『休日・夜間における医師による電話等診療』、『宿泊療養施設の調整』等、陽性者の治療や療養に必要な支援を行う体制を構築するということで、発生届が出てない陽性者に対してもそのようなフォローアップをするような体制が県で整えられています。

本市の保健所における体制において、より高齢者、重症化しやすい方に手厚くできる体制にシフトしながら、全体として事務軽減が図られるということで、今最大１５０名の応援体制取っていますが、それについて見直し、縮小を行う体制に持っていきたいと思います。

いずれにいたしましても、全数把握の見直しは必要なことであり、評価をした

いと思いますが、これによって陽性者のケア、世話がおろそかになっては困るということでその体制は県の体制充実をしっかりやってもらいたいと思います。